

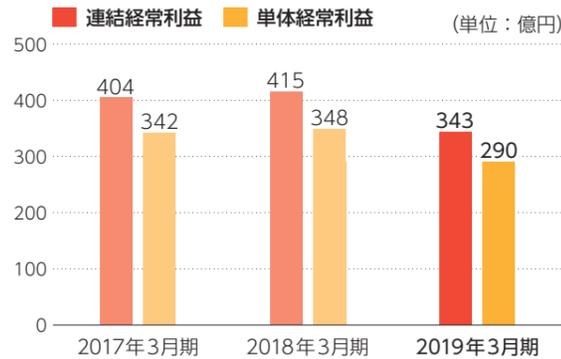
業績ハイライト

主要な経営指標の推移

	2018年3月期	2019年3月期	前期比
連結経常収益	1,812	1,611	△ 200
連結経常利益	415	343	△ 71
親会社株主に帰属する当期純利益	258	224	△ 33

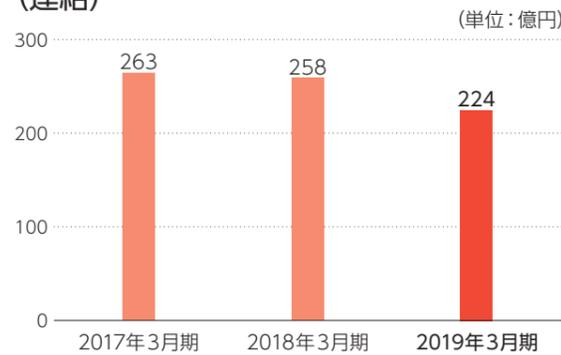
	2018年3月期	2019年3月期	前期比
経常収益	1,407	1,210	△ 196
業務純益	302	350	47
経常利益	348	290	△ 58
当期純利益	227	218	△ 8

経常利益の状況



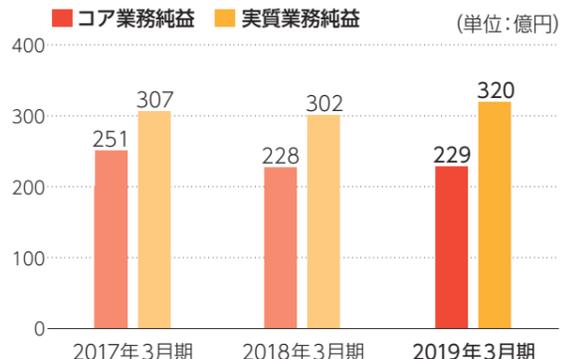
実質業務純益は増加したものの、貸倒引当金繰入額の増加や株式売却益の減少などにより、単体経常利益は前期比58億円減少しました。

親会社株主に帰属する当期純利益の状況 (連結)



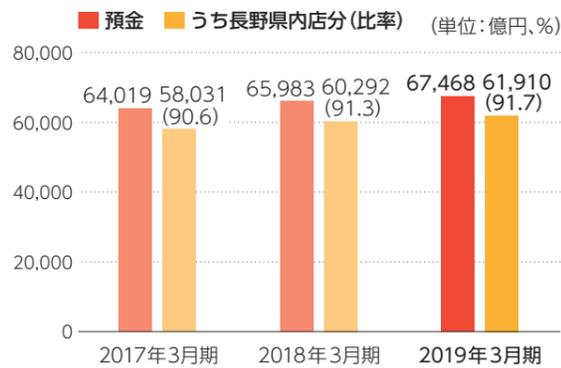
当行単体の経常利益の減益などにより前期比33億円減少し、224億円となりました。

コア業務純益・実質業務純益の状況



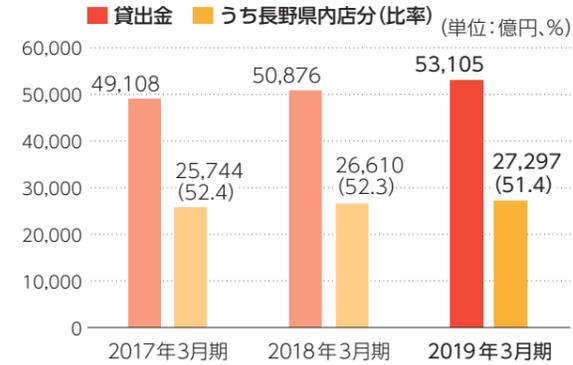
貸出金利息の増加などによりコア業務純益は前期比1億円、さらに国債等債券売却損の減少などもあり実質業務純益は同17億円増加しました。

預金の状況



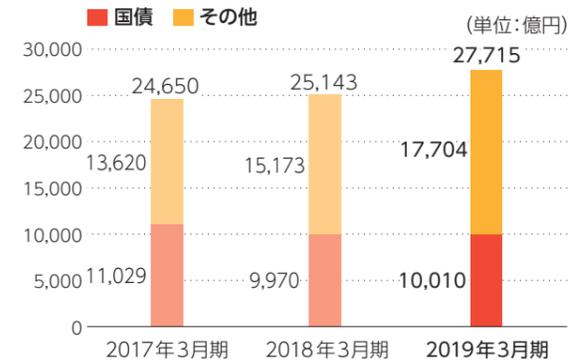
前期比1,485億円と個人・法人ともに増加し、6兆7,468億円となりました。うち、長野県内店預金は6兆1,910億円となりました。

貸出金の状況



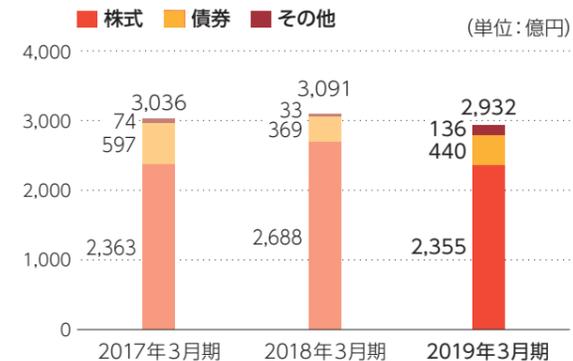
前期比2,229億円と事業性・消費性資金いずれも増加し、5兆3,105億円となりました。うち、長野県内店貸出金は2兆7,297億円となりました。

有価証券残高の状況



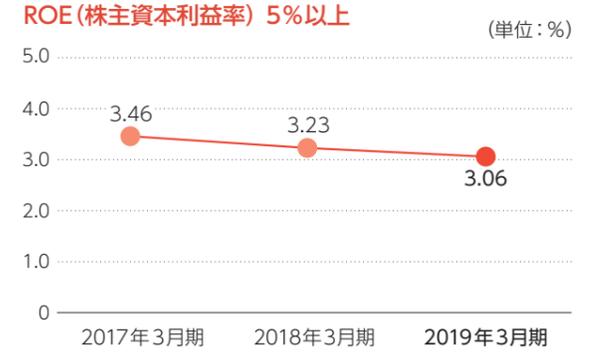
地方債・社債などの増加により前期比2,571億円増加し、2兆7,715億円となりました。

有価証券評価損益の状況

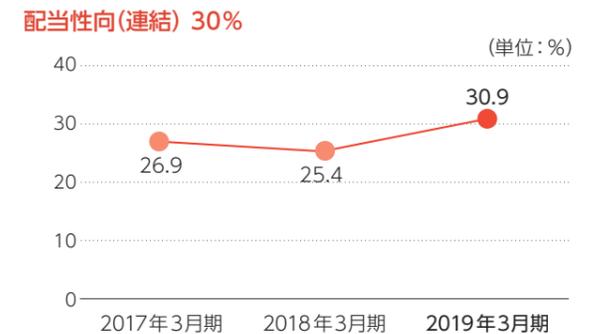
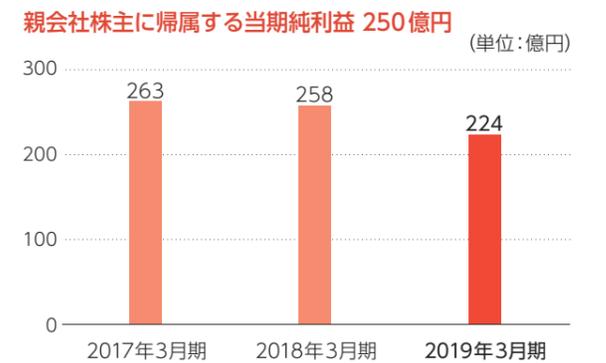


金利の低下などにより債券の評価益は増加しましたが、株式の売却などにより前期比159億円減少し、2,932億円となりました。

長期的経営指標



目標とする経営指標 (2021年3月)



用語解説
コア業務純益
 一般的な要因に左右されない銀行の本来業務の利益です。
実質業務純益
 コア業務純益に国債等債券損益を加えたものです。
ROE(株主資本利益率)
 企業の収益性を測る指標 当期純利益/自己資本(期首・期末平均)

連単倍率
 親会社の単独決算の利益に対する連結決算の利益の割合
 親会社株主に帰属する当期純利益/当期純利益(単体)
配当性向
 事業活動によって得た利益を、配当としてどの程度株主に還元しているかを示す指標
 年間配当額/1株当たり当期純利益